

平成 27 年度

これからのまちづくりのための  
市民意識調査報告書

平成 28 年 7 月

## 目 次

	頁
1. 調査の概要	1
(1) 目的	1
(2) 調査方法	1
(3) 回収結果	1
(4) 報告書の見方	1
2. 集計結果	2
問1    (ア) 性別	2
(イ) 年齢	2
(ウ) お住まいの地区（小学校区）	3
(エ) 居住形態	3
(オ) 職業	4
通勤・通学先	4
(カ) 燕市居住年数	5
問2 住みやすさ	5
問3 居住意向	6
市外に引っ越ししたい理由	7
問4 まちづくりに対する満足度と重要度	8
問5 必要な取組	10
問6 特色や資源、魅力や自慢できること	11
問7 まちづくり基本条例の認知度	13
問8 自治会や各種団体への参加	13
問9 参加したことがある団体の活動	14
問10 参加したことがない理由	14
問11 参加できる団体の活動	15
問12 利用している情報媒体	15

## 1. 調査の概要

### (1) 目的

本調査は、「燕市総合計画」の進行管理に当たり、市民が日頃まちづくりや身近な生活環境についてどのように考えているのかを把握するとともに、各施策の満足度、重要度を明らかにすることにより、施策の優先順位の検討等に資することを目的とする。

### (2) 調査方法

本調査の方法は、下記のとおりである。

項目	内容
調査地域	燕市全域
調査対象者	燕市内在住の満 18 歳以上の男女個人 (平成 28 年 2 月現在)
標本数	2,000 人
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出
配付・回収方法	郵送配付、郵送回収
配付・回収期間	平成 28 年 2 月 18 日 (木) ~平成 28 年 2 月 29 日 (月)

### (3) 回収結果

有効回収数 : 883 票 (有効回収率 44.2%)

### (4) 報告書の見方

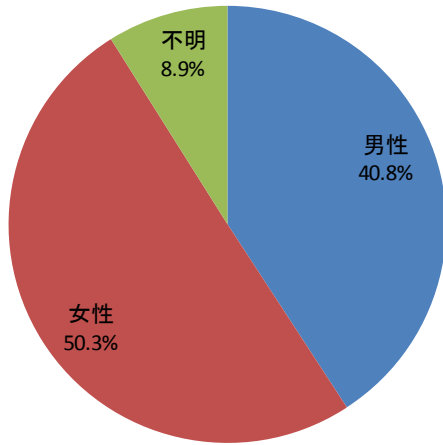
- ①回答割合は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
- ②複数回答の設問の場合、全ての回答割合を合計すると 100%を超える場合がある。
- ③基数となるべき実数 (N) は、特に記述のない限り、有効回収数である。
- ④本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

## 2. 集計結果

問1 あなたご自身についておたずねします。

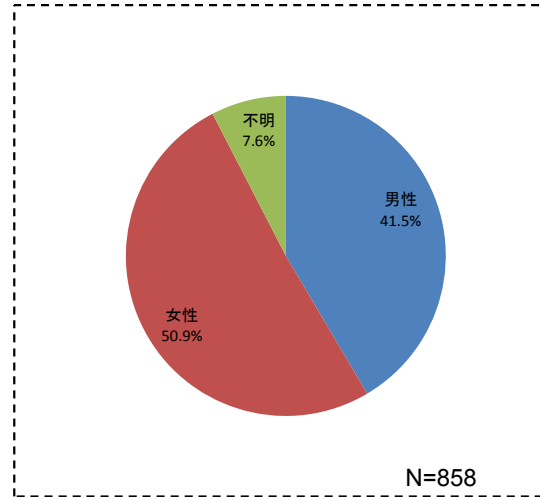
(ア) あなたの性別は

性別は、「男性」が40.8%、「女性」が50.3%となっている。



N=883

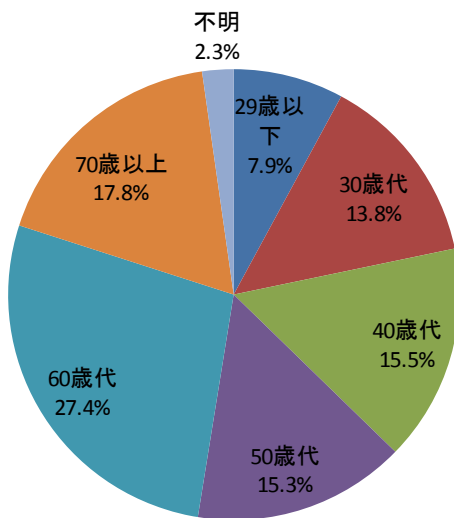
【前回の市民意識調査(平成27年3月)】



N=858

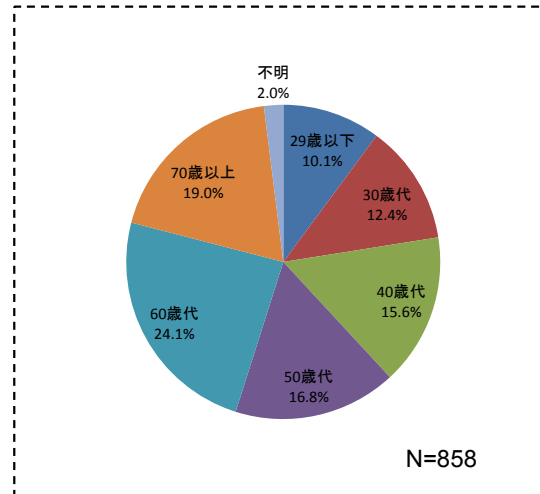
(イ) あなたの年齢は

年齢別の割合は、「60歳代」が最も多く27.4%、次いで「70歳以上」が17.8%、「40歳代」が15.5%となっている。「50歳代」以上の回答が6割以上と多くなっている。



N=883

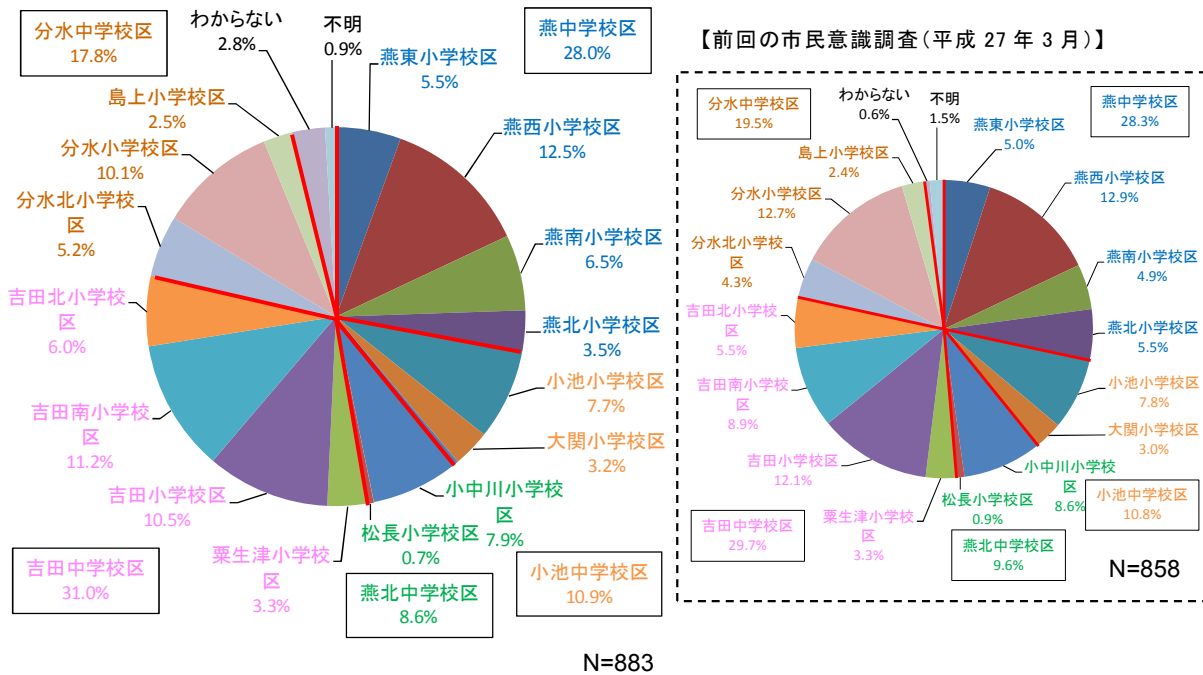
【前回の市民意識調査(平成27年3月)】



N=858

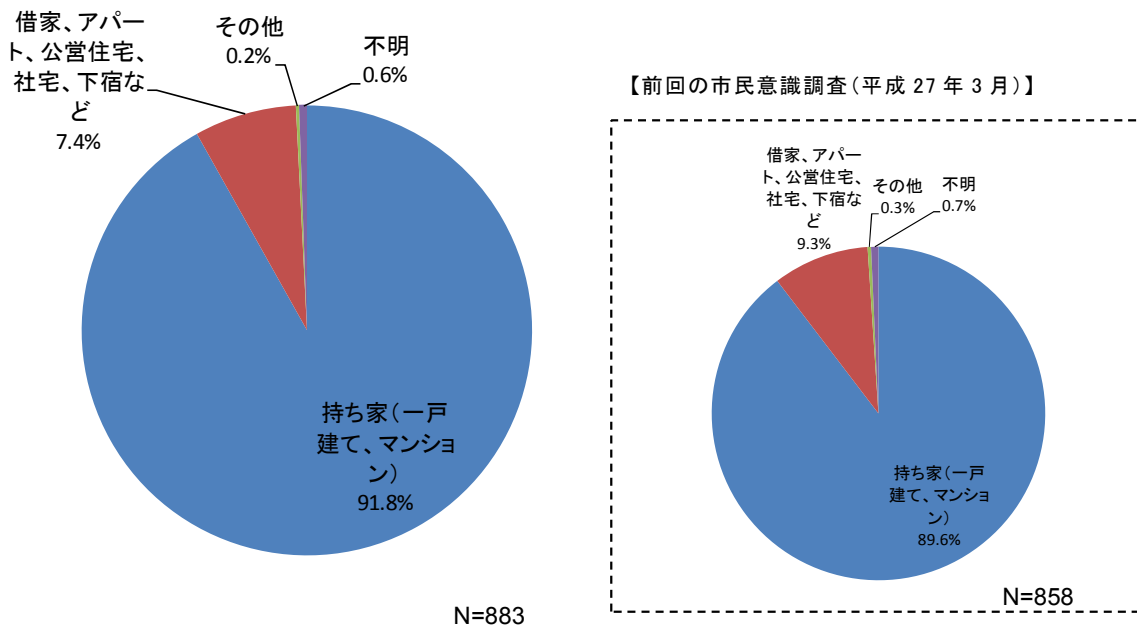
(ウ) あなたのお住まいの地区（小学校区）は

居住地域別では、「燕西小学校区」が最も多く 12.5%、次いで「吉田南小学校区」が 11.2%、「吉田小学校区」が 10.5%となっている。



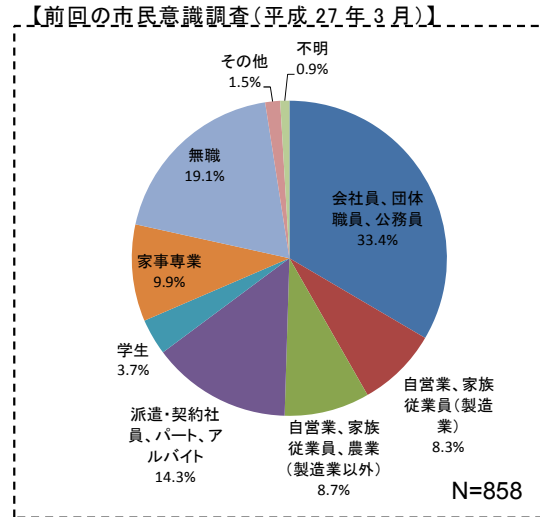
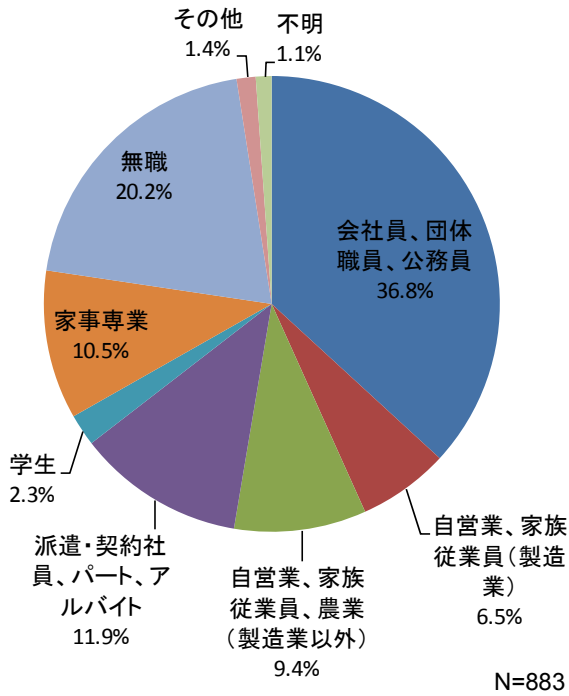
(エ) あなたのお住まいの形態は

居住形態は、「持ち家（一戸建て、マンション）」が 91.8%、「借家、アパート、公営住宅、社宅、下宿など」が 7.4%となっている。



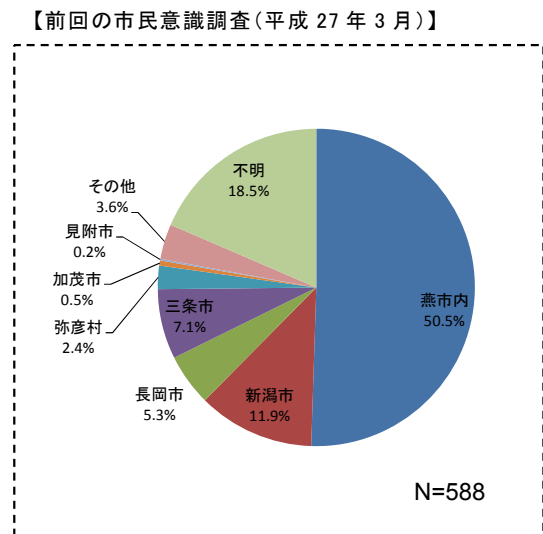
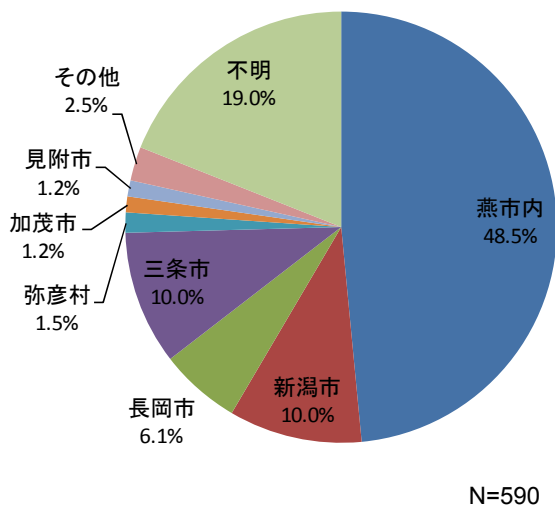
(オ) あなたのご職業は

職業は、「会社員、団体職員、公務員」が最も多く 36.8%、次いで「無職」が 20.2%、「派遣・契約社員、パート、アルバイト」が 11.9%となっている。



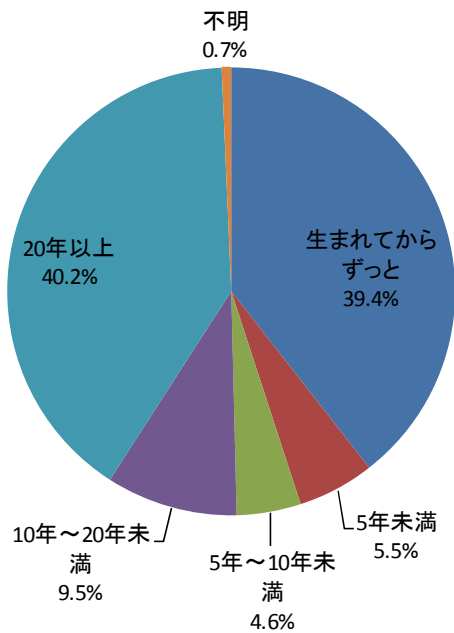
通勤・通学先は

通勤・通学先は、「燕市内」が最も多く 48.5%、次いで「新潟市」と「三条市」が 10.0%、「長岡市」が 6.1%となっている。



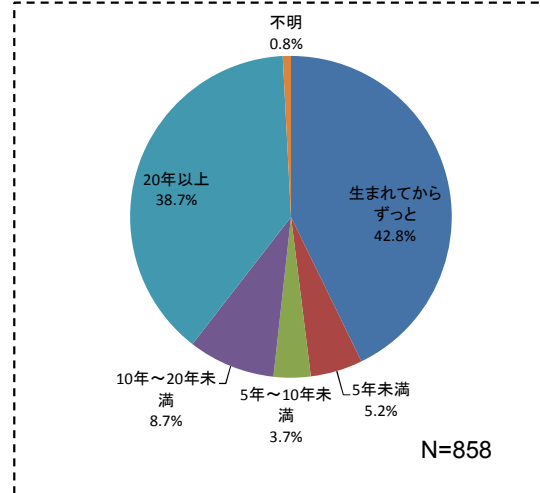
(カ) あなたが燕市に住みはじめてからの年数は

居住年数は、「20年以上」が最も多く40.2%、次いで「生まれてからずっと」が39.4%となっている。この2つの選択肢で約8割を占めている。



N=883

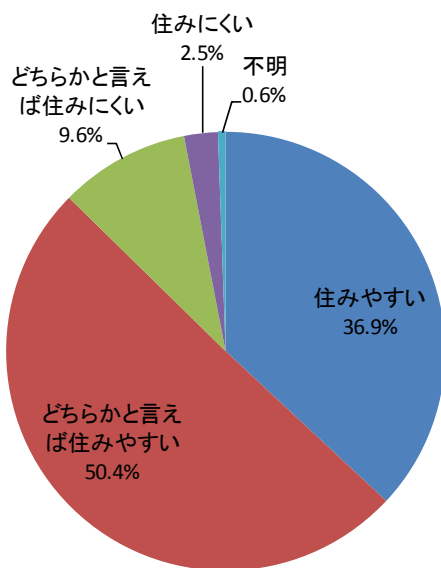
【前回の市民意識調査(平成27年3月)】



N=858

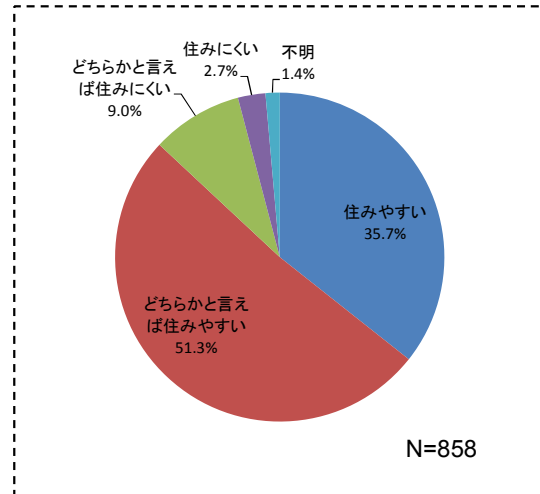
問2 あなたにとって、燕市は住みやすいまちですか。

燕市の住みやすさは、「住みやすい」が36.9%、「どちらかと言えば住みやすい」が50.4%、「住みにくい」が2.5%、「どちらかと言えば住みにくい」が9.6%となっており、「住みやすい」が8割以上となっている。



N=883

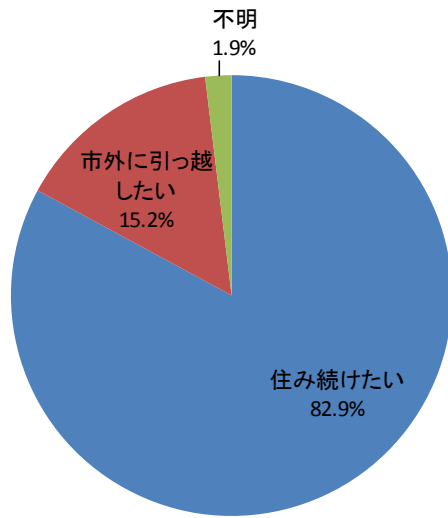
【前回の市民意識調査(平成27年3月)】



N=858

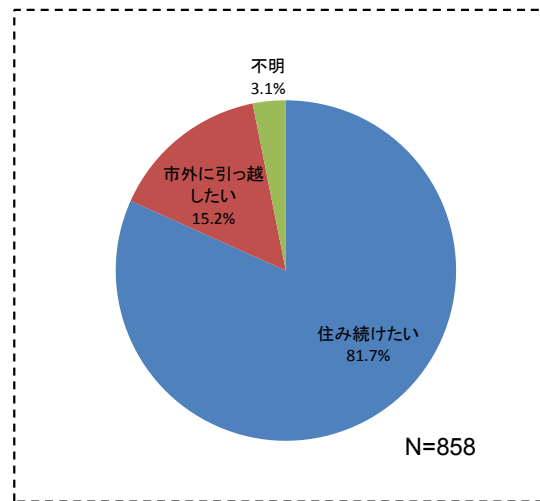
問3 あなたは、今後も燕市に住み続けたいですか。

居留意向は、「住み続けたい」が82.9%、「市外に引っ越したい」が15.2%となっている。



N=883

【前回の市民意識調査(平成27年3月)】

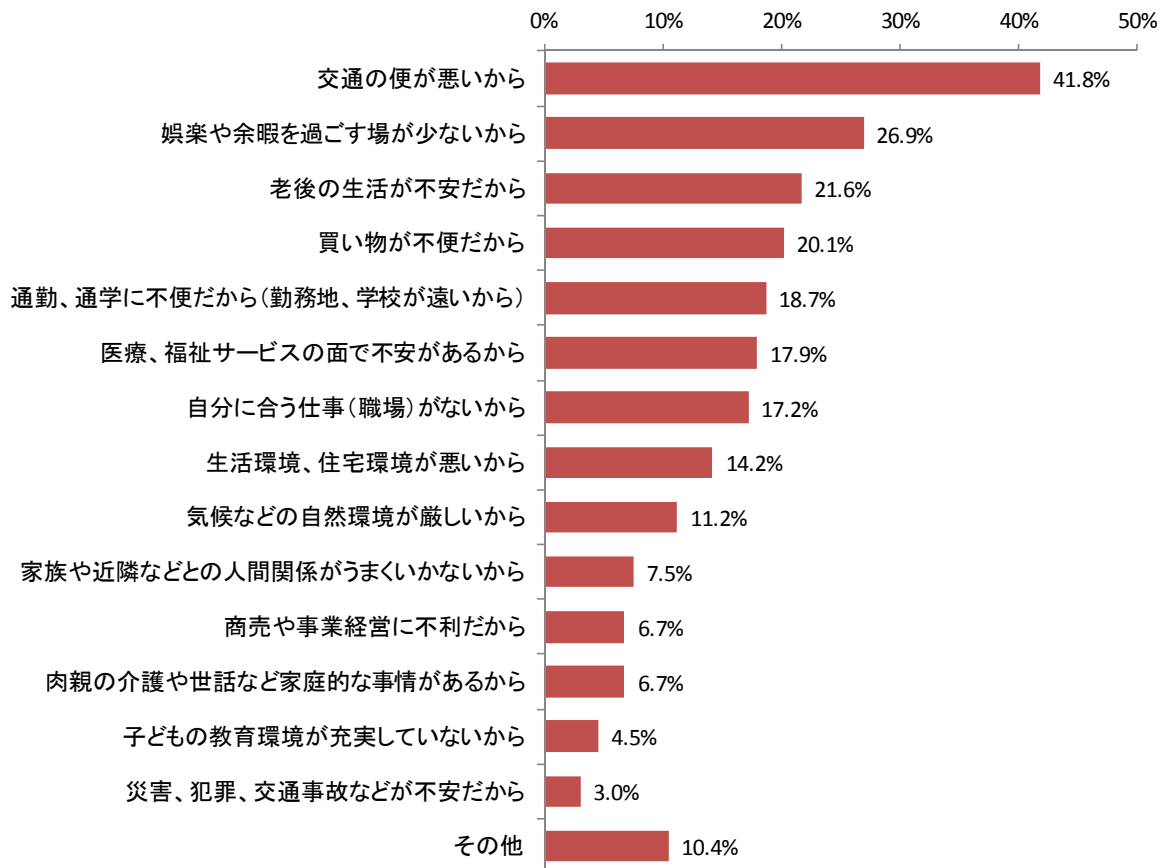


N=858



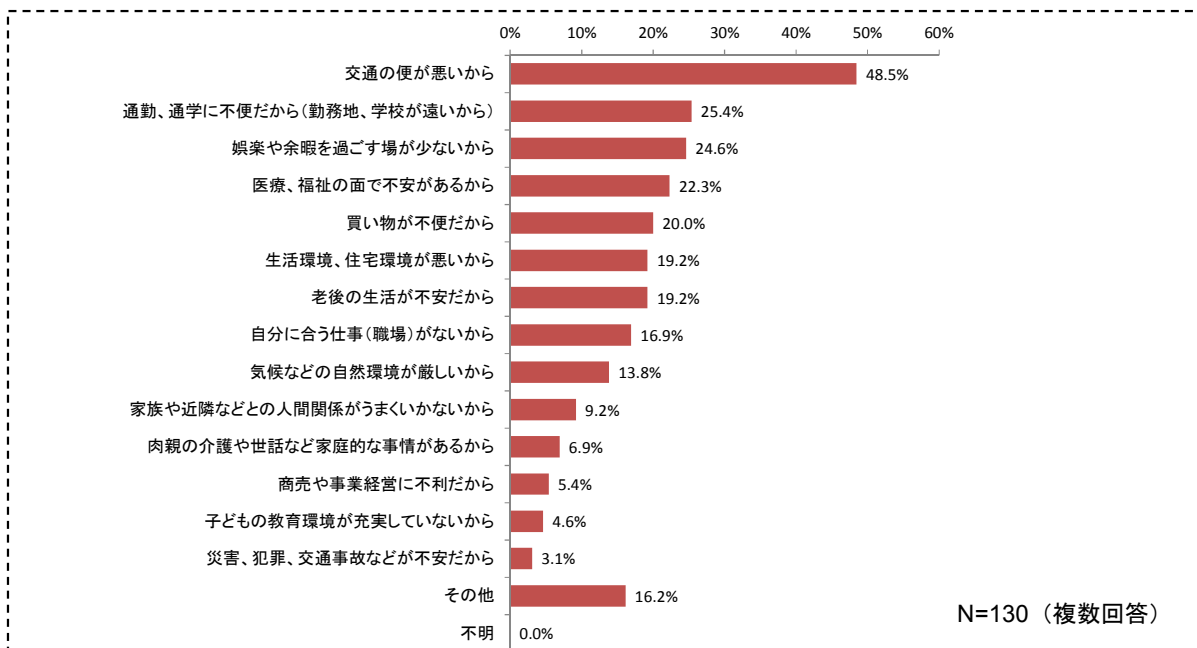
## 市外に引っ越したい理由

市外に引っ越したい理由は、「交通の便が悪いから」が最も多く 41.8%、次いで「娯楽や余暇を過ごす場が少ないから」が 26.9%、「老後の生活が不安だから」が 21.6%となっている。



N=134 (複数回答)

### 【前回の市民意識調査(平成 27 年 3 月)】



N=130 (複数回答)

問4 燕市のまちづくりに対するあなたの満足度と重要度をおたずねします。

満足度と重要度の関係

市民のまちづくりに対する満足度、重要度について指数化し、相関関係を4象限で表した。数値が高いほど、満足度、重要度とも高い。

満足度が高い施策は「上水道の供給」、重要度が高い施策は「医療体制」である。一方、満足度が低い施策は「商業の振興」、重要度が低い施策は「生涯学習、芸術文化活動」であった。

□ 指数の算出について

✓ 満足度指数は各項目の回答を、「満足」：2点、「どちらかと言えば満足」：1点、「わからない」：0点、「どちらかと言えば不満」：-1点、「不満」：-2点として、当該施策に対する有効回答者数の合計で除した。

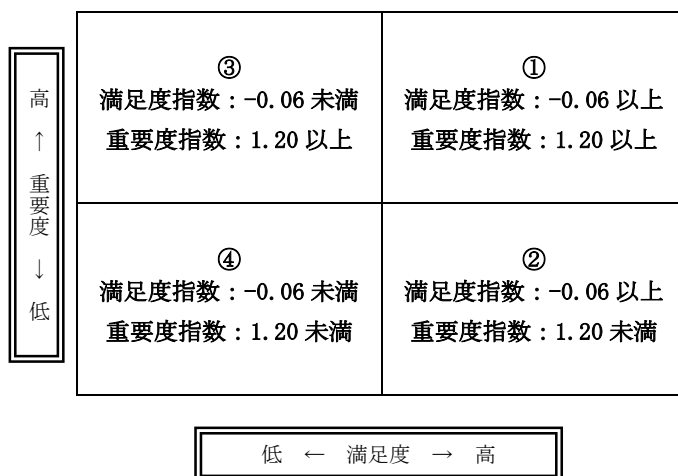
(例)「地場産業の振興」について、56人は「満足」、283人は「どちらかと言えば満足」、256人は「わからない」、174人は「どちらかと言えば不満」、48人は「不満」と回答した。有効回答者数は883人中817人である。この場合、満足度指数は…

$(56人 \times 2点 + 283人 \times 1点 + 256人 \times 0点 + 174人 \times -1点 + 48人 \times -2点) \div 817人 = \text{約} 0.15$

✓ 重要度指数は各項目の回答を、「重要」：2点、「やや重要」：1点、「あまり重要ではない」：-1点、「重要ではない」：-2点として、その施策に対する有効回答者数の合計で除した。

✓ 図の原点は各指数の平均（満足度：-0.06、重要度：1.20）となっている。

■ 図の見方



①満足度も重要度も高い施策

満足度を低下させないために、現在の水準を維持・向上させることが求められる可能性のある施策。

②満足度は高いものの重要度は低い施策

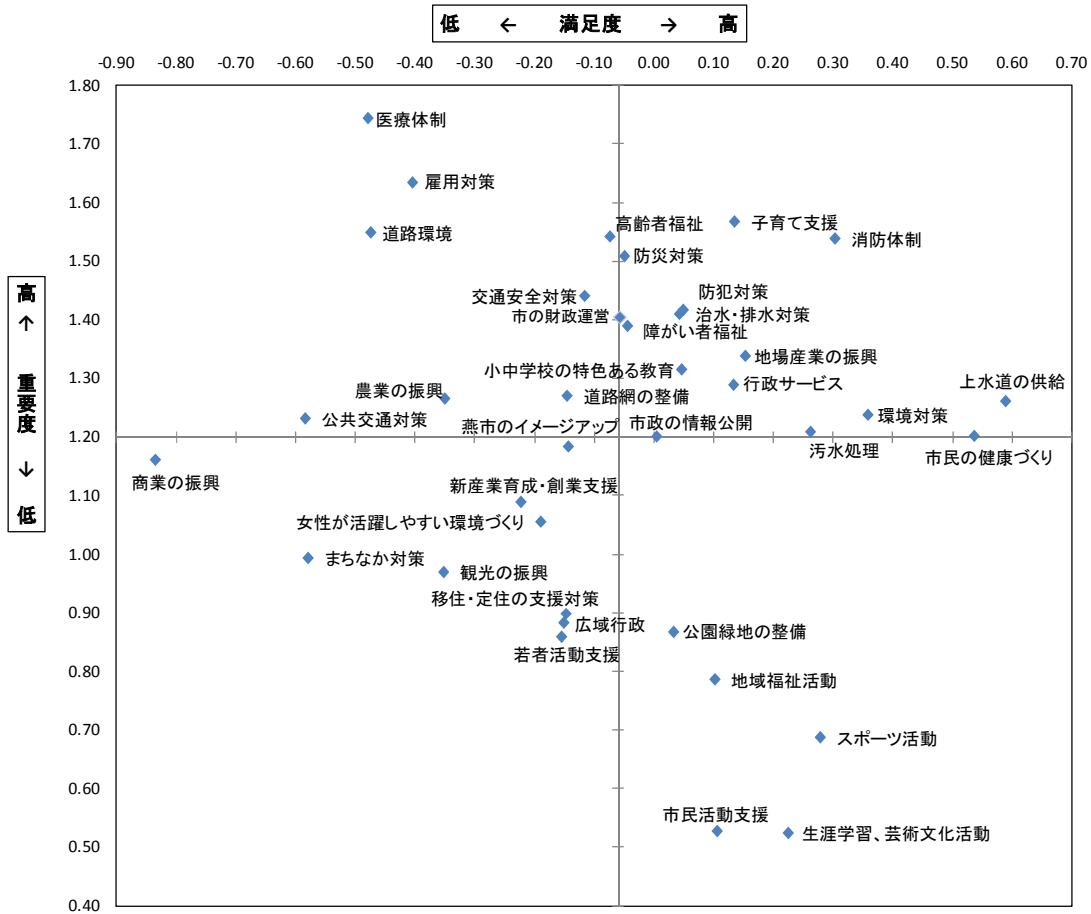
当該施策の社会的意義や法的な義務付け等への配慮は必要であるものの、財政状況によっては見直しを行う可能性のある施策。

③満足度が低く重要度が高い施策

住民の期待に対して十分対応できていない施策であることから、住民満足度を向上するために最も優先して取り組まなければならない可能性のある施策。

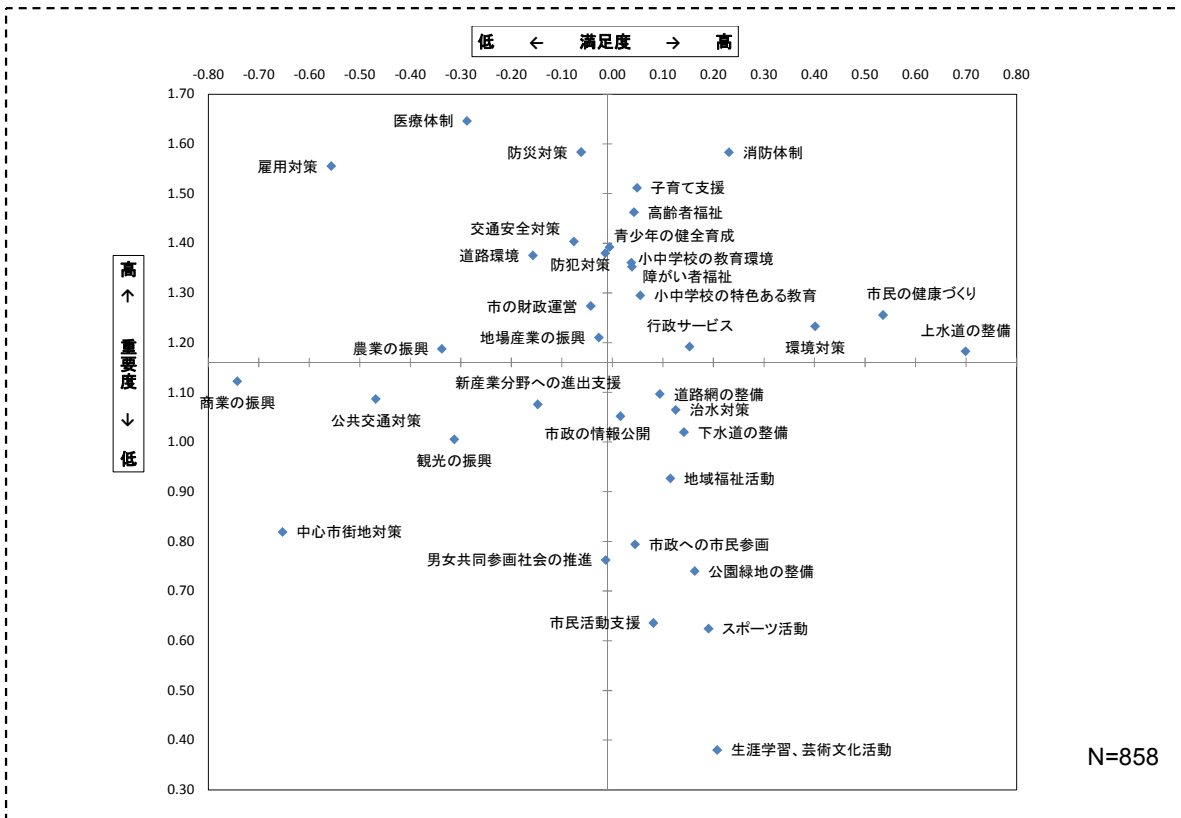
④満足度も重要度も低い施策

重要度（住民の期待）が低いため、満足度を上げるための対策は必ずしも緊急ではない可能性のある施策。



N=883

【前回の市民意識調査(平成 27 年 3 月)】

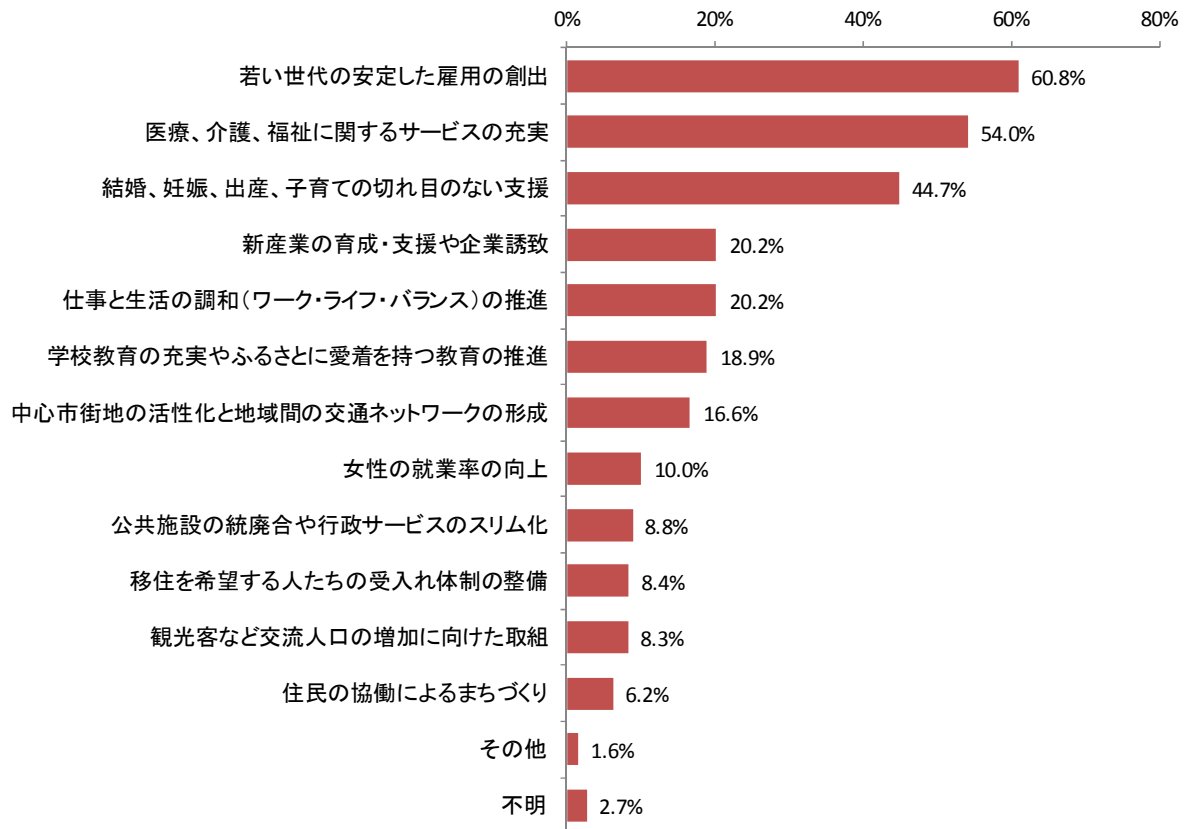


N=858

問5 現在、燕市においても人口が減少し、将来の市民生活や経済活動への影響が懸念されているなか、知恵と工夫を凝らしたまちづくりが求められています。燕市にとってあなたはどのような取組が必要だと思いますか。

【平成 27 年度新規調査項目】

燕市にとって必要な取り組みは、「若い世代の安定した雇用の創出」の 60.8%で、次いで「医療、介護、福祉に関するサービスの充実」が 54.0%、「結婚、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援」が 44.7%となっている。

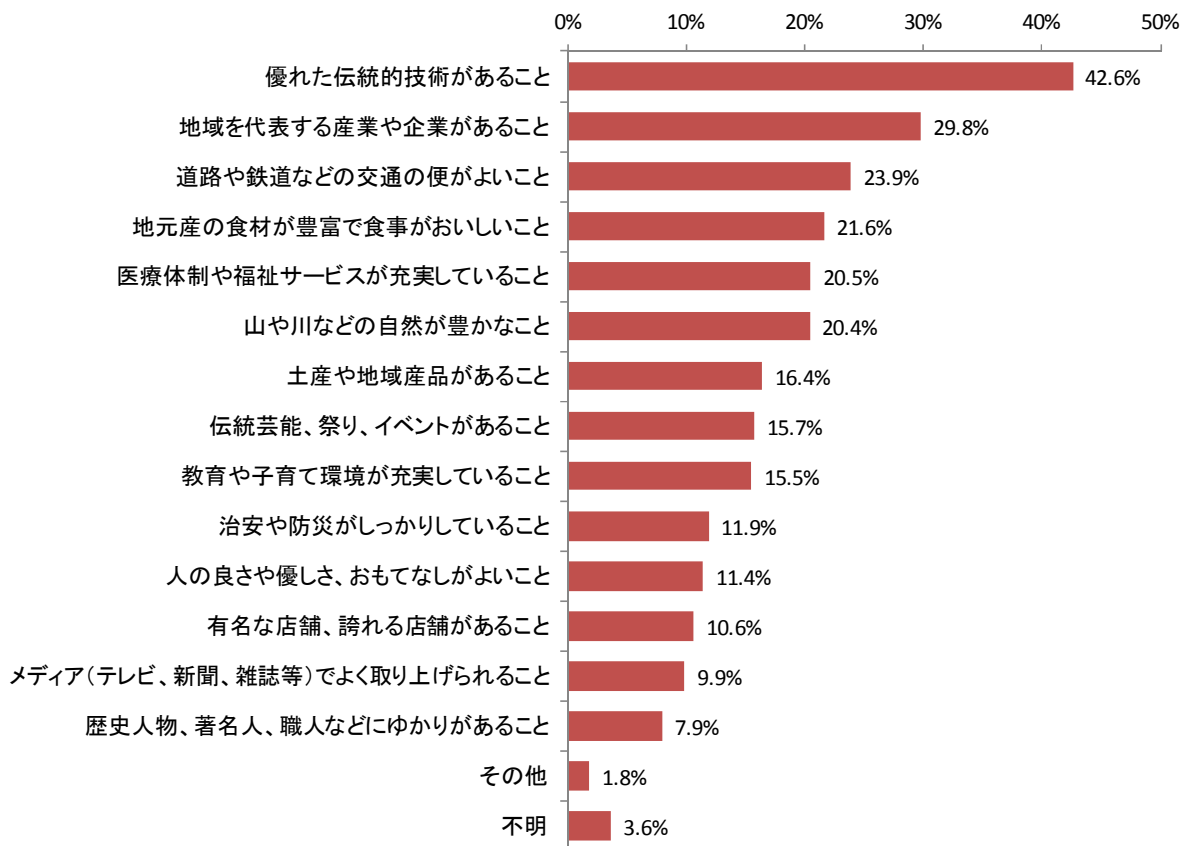


N=883 (複数回答)

問6 地方創生の時代と言われているなか、地域の特色や資源を活かしたまちづくりが求められています。そんな中で燕市に住む人や訪れる人を増やすために活かすべき特色や資源、魅力や自慢できることは何だと思いますか。

【平成 27 年度新規調査項目】

燕市が活かすべき特色や資源、魅力や自慢できることは、「優れた伝統的技術があること」の42.6%で、次いで「地域を代表する産業や企業があること」が29.8%、「道路や鉄道などの交通の便がよいこと」が23.9%となっている。



N=883 (複数回答)

※問6で○印を付けたうち、特色や資源、魅力や自慢できる具体的なこと。

〔食品〕

合計9種 48件

産品名	件数
ラーメン	23
野菜・農産物	12
米	5
鶏肉レモン和え	3
水	1
つばめの餃子	1
お菓子	1
カレーのから揚げ	1
伝統料理	1

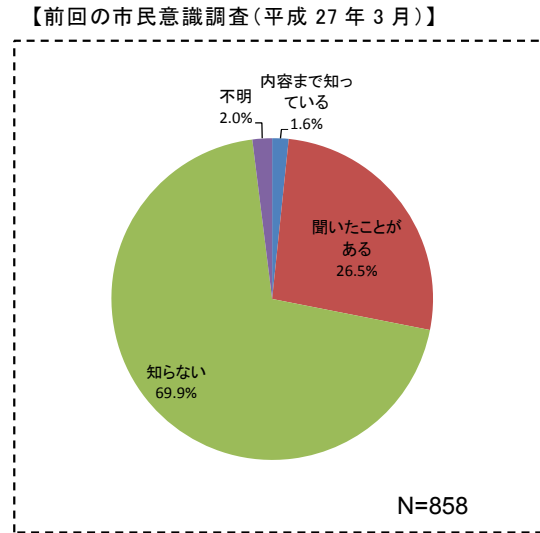
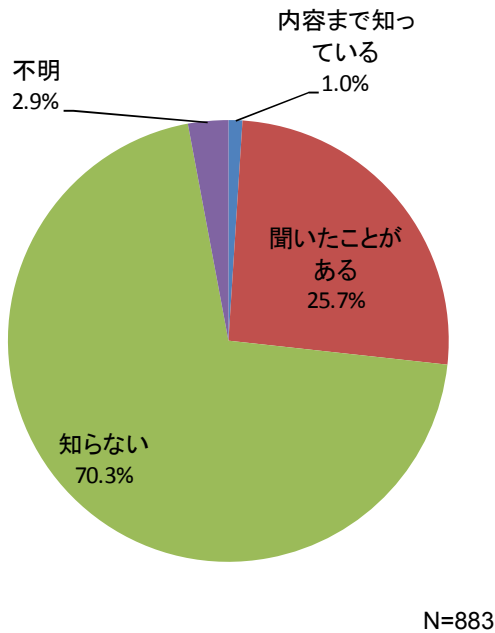
〔食品以外〕

合計29種 188件

産品名	件数
食器・カトラリー	42
金属加工技術	31
鋤起銅器	14
弥彦山・国上山	10
交通アクセス	10
分水おいらん道中	9
金属加工品	8
まつり、イベント	8
大河津分水	7
良寛	6
刃物・金物	5
磨き技術	5
ものづくり	5
自然	4
住みやすさ	3
桜	3
温泉	2
教育・子育て環境	2
税金・物価等が安い	2
人柄	2
福祉環境	2
季節感	1
越後平野	1
酒呑童子	1
国上寺	1
きららん	1
人間国宝	1
災害が少ない	1
雇用環境	1

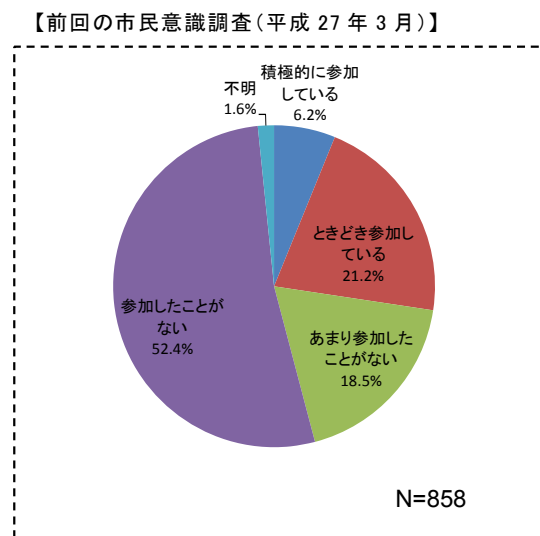
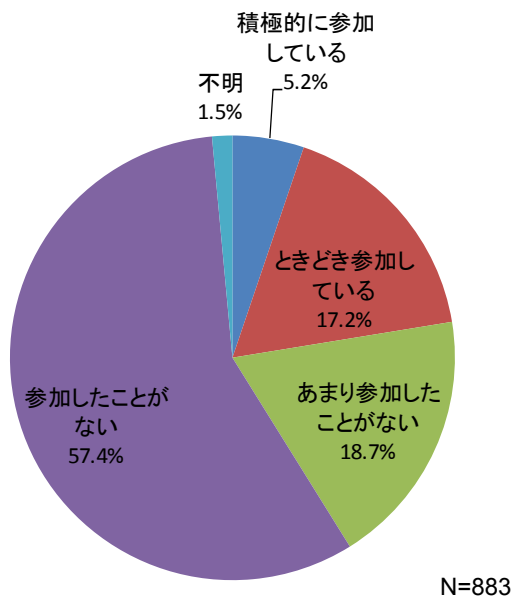
問7 あなたは、市民一人ひとりがまちづくりの主人公であるという基本理念のもと制定された「燕市まちづくり基本条例」を知っていますか。

「燕市まちづくり基本条例」の認知状況は、「内容まで知っている」が1.0%、「聞いたことがある」が25.7%で、その合計が26.7%に対し、「知らない」が70.3%と大きく上回っており、認知度は低い状況となっている。



問8 あなたは、最近、自治会やまちづくり協議会、NPO（民間非営利組織）、ボランティア組織、各種団体などの活動に、どの程度参加していますか。

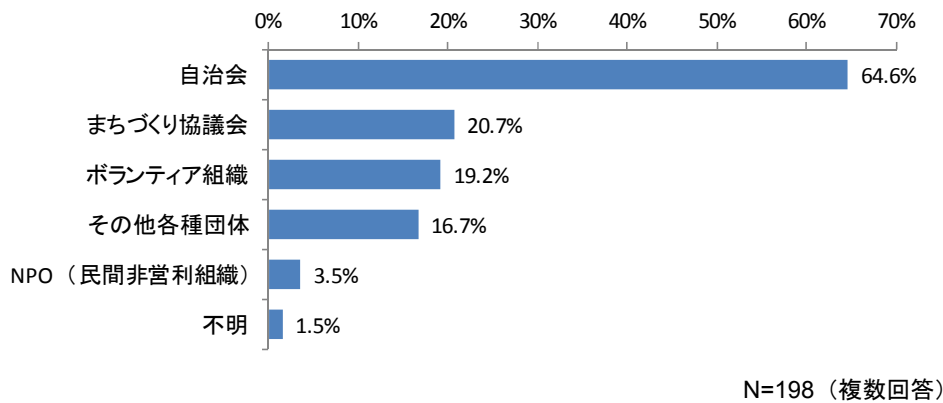
自治会や各種団体への参加は、「積極的に参加している」が5.2%、「ときどき参加している」が17.2%、「あまり参加したことがない」が18.7%、「参加したことがない」が57.4%となっており、自治会、各種団体への参加が進んでいない状況となっている。



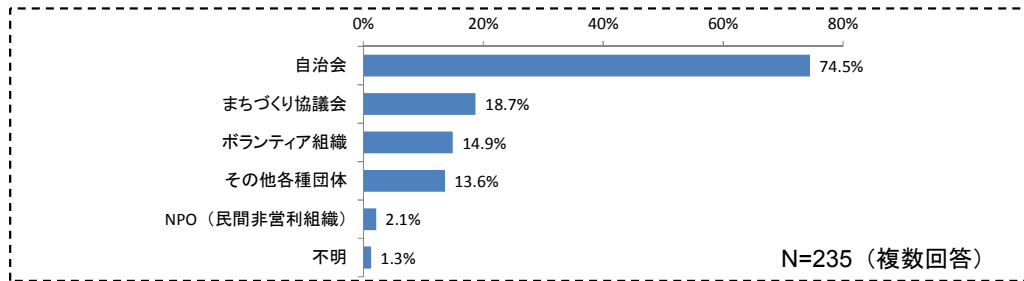
### 問9 参加したことがある団体の活動について

[問8で「積極的に参加している」「ときどき参加している」を回答した方限定]

参加したことがある団体活動については、「自治会」が最も多く 64.6%、次いで「まちづくり協議会」が 20.7%、「ボランティア組織」が 19.2%となっている。



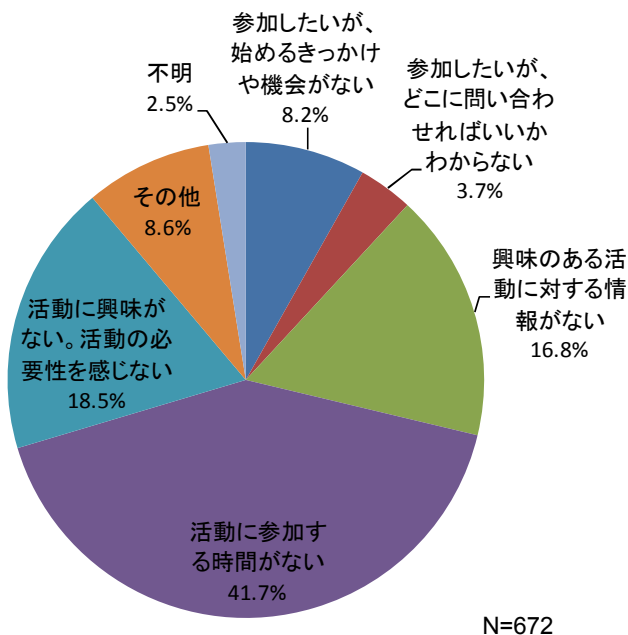
【前回の市民意識調査（平成 27 年 3 月）】



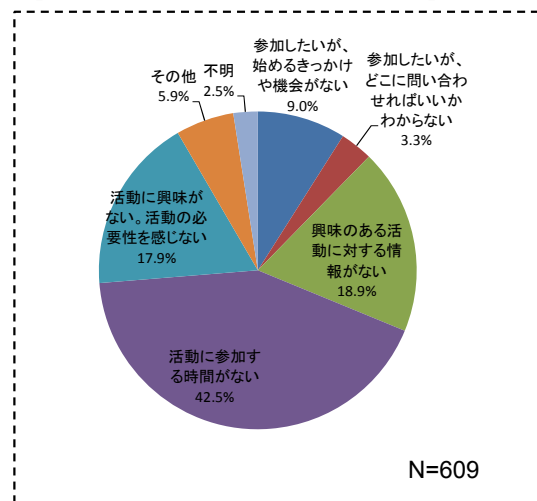
### 問10 参加したことがない理由について

[問8で「あまり参加したことがない」「参加したことがない」を回答した方限定]

団体活動について参加したことがない理由は、「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」から「活動に参加する時間がない」まで 7 割以上の方々が、潜在的な活動意欲を活かしきれていない状況となっている。



【前回の市民意識調査（平成 27 年 3 月）】

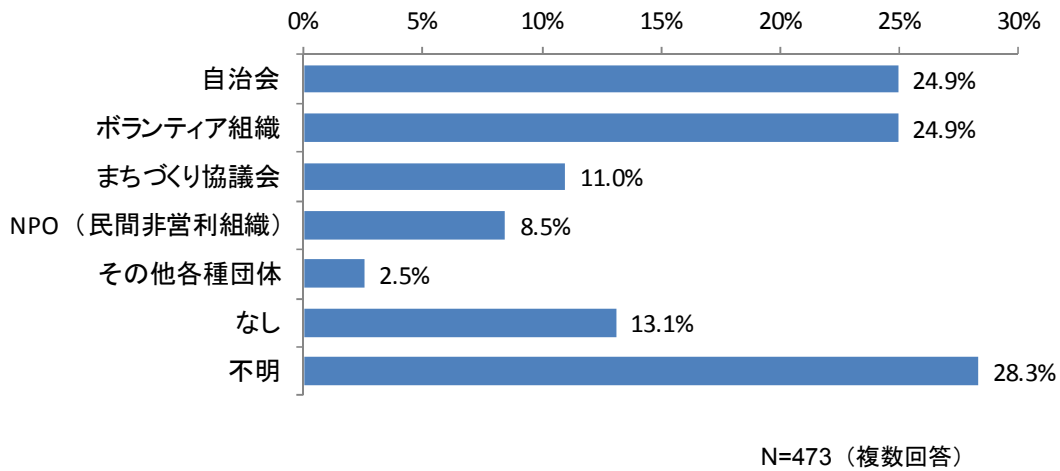




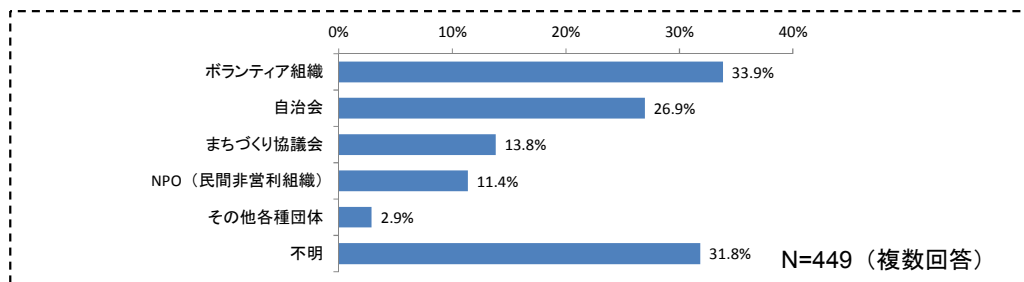
問11 あなたが参加できるとすればどの団体の活動ですか。

[問10で「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」「参加したいが、どこに問い合わせればいいのかわからない」「興味のある活動に対する情報がない」「活動に参加する時間がない」を回答した方限定]

活動に参加できる団体活動は、「自治会」と「ボランティア組織」が最も多く 24.9%、次いで「まちづくり協議会」が 11.0%、「NPO（民間非営利組織）」が 8.5%となっている。



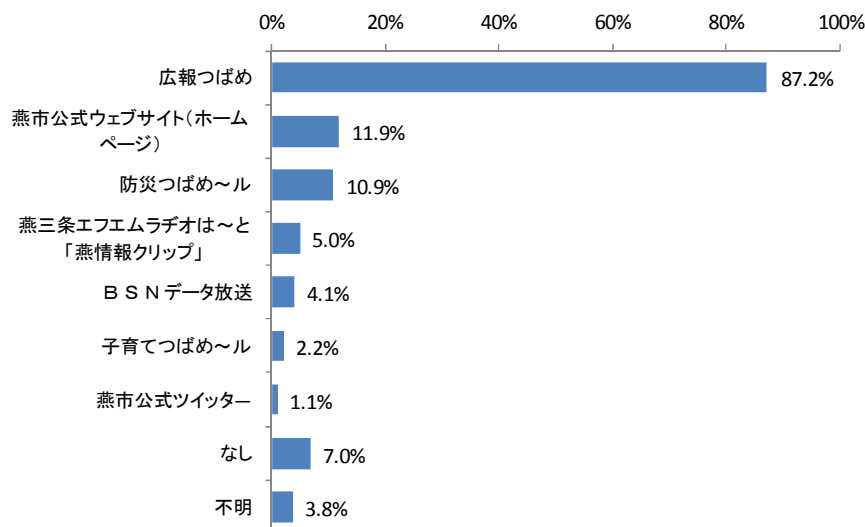
【前回の市民意識調査（平成 27 年 3 月）】



問12 あなたは、燕市が情報発信を行っているどの情報媒体を利用（読む／みる／聴く）していますか。

【平成 27 年度新規調査項目】

利用している情報媒体については、「広報つばめ」が最も多く 87.2%、次いで「燕市公式ウェブサイト（ホームページ）」が 11.9%、「防災つばめ〜ル」が 10.9%となっている。



N=892（複数回答）